

広 報



きかい

No. 514

4

平成 22 年
(2010 年)

- P 2 平成22年施政方針(全文)
- P 7 シマの話題その1(農業青年クラブ発足他)
- P 8 シマの話題その2(楽しくみんなでボランテニア他)
- P 14 町役場人事異動
- P 15 シマの話題その3(人力車・リキシャが来島他)
- P 17 喜界歌壇・戸籍の窓
- P 18 島に咲く花

交差する出会いと別れ



表紙説明

年度末の船着き場。この時期この場所で、島を離れる人と島に降り立つ人が交差する。

島を離れる人は、甲板にでて五色のテープを手にしながらかい声をかけ合い、岸壁を離れて互いが見えなくなるまで手を振り合って別れを惜しむ。そのわずか数時間後には入れ替わるように、まだ見知らぬ誰かが島に降り立つ。

両者が共通して胸に抱くのは、新天地への「期待」と「不安」であろう。

春は、一年で最も人の心が揺れ動く季節かもしれない。

施政方針(原文)

平成22年第1回町議会定例会は3月5日に開会し、加藤啓雄町長は平成22年度の施政方針演説をされました。これは今後一年の町行政の柱となる基本政策および各分野の方針について、町長が町議会をおして町民へ表明するものです。演説で加藤町長は「職員定数の削減、特別職の給与カット、補助金の見直しなどの行財政改革を今後も推進し、本町の美徳でございます。『まごころと信頼の絆で興す町づくり』の実現に向け、議会並びに町民の皆様と一体となって町勢発展に努めます」と訴えました。ここで、平成22年度施政方針の原稿(全文)を掲載します。



今年度の所信を述べる加藤町長

—平成22年度の大きな取り組み—

極小規模校での教育課題や校舎耐震基準の適正化などを踏まえた学校・幼稚園再編の課題について、長期的展望を見据えた議論と町民への十分な周知を図る

平成22年のスタートにあたり町政運営の基本方針について所見を申し上げ、町民並びに議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

わが国を取り巻く状況は、巨大投機マネーによる原油の高騰を起因とした製造企業

の経営圧迫に始まり、世界金融危機に端を発した企業の衰退、派遣切り、高い失業率など、未だ経済の低迷は続いております。

また国政においては昨年8月の衆議院議員選挙により政権が交代をいたしました。その影響は、政権与党の打ち出した施策である従来制度の改廃、また事業仕分けによる見直しなど、財源の多くを国に求めている本町においては、改めて大きな変革に戸惑い、今後さらさら厳しい状況にあります。

このような厳しい財政状況の中、我々地方自治体も一層、自助努力を進めていかなければなりません。

一方、明るい話題としては、昨年7月22日の今世紀最大の天体ショーといわれた皆既日食でございます。

南西諸島の各島々で天候が悪化する中、喜界島だけが幸運にも観測できました。町民全てが約3分間の体験に大変感動されたことは、既にご周知のとおりでございます。また、皆既日食期間におきまして島外から訪れた多くの方々より、日食の観測はもとより島人(シマツチュ)の人情文化等に触れ感激したという声が多数寄せられました。

また10月には、本町で二人目となるプロ野球からドラフト指名があり、本町上嘉鉄出身の美沢将君が埼玉西武ライオンズに入団したことは、既にご承知のことでございます。プロの世界への扉を開くことは喜界高校野球部、また少年スポーツにおきましても大きな励み・目標になることももちろん、喜界町民にとっても大きな希望と勇気を与え、それが町民としての自信につながったことと確信しております。

産業振興においては、本町は、地域興しの一環として特産の振興に取り組んでおりますが、昨年NPO法人「日本

で最も美しい村連合」への加盟が承認され、この組織のネットワークを十分活用した既存の特産品のPRや、本町のまだまだ埋もれた食材の掘り起こしなど、更に発展していくものと期待しているところであります。

平成22年度の大きな取り組みとして、掲げさせていただきたいのは、学校再編問題でございます。

本町におきましては、年々人口の減少が進み、また同時に少子化も一層進んでおり、極小規模校化などの教育課題や、耐震強度基準の適正施設や、学校施設の老朽化など、直面する課題解決のため、学校再編は必要不可欠なものと見て、喜界町立幼稚園・学校規模適正検討委員会において検討を重ねてまいりました。

その答申が昨年なされ、この答申に基づき、具体的に学校数、設置場所など、学校再編について学校再編整備検討委員会が長期的な展望を見据えた検討を十分に重ねて決定してまいりたいと存じます。決定後は説明会を実施し、町民の皆様にご周知を図ってまいりたいと存じます。

冒頭でも述べましたように、国政の変化により地方行政

においても、ますます将来の見通しについては、不透明感が拭い切れず、厳しい状況にございます。幸いにも本町におきましては、職員の努力とそれを理解して頂いております。健全財政を維持しております。しかしながら、決して楽観視することなく、今後も行財政改革を更に推進してまいります。現在も、補助金の見直し、職員定数の削減、特別職の給与カットなどを筆頭に多くの改革を同時に進めております。

平成22年度も本町の美徳でございます。「まごころと信頼の絆で興す町づくり」の実現に向け、議会及び町民の皆様と一体となって、町勢発展に努めて参る所存でございます。それでは、主な施策についてご説明します。

1. 地域を支える基盤づくり

糖業振興につきましましては、

平成20/21年産さとうきび生産量が2年連続となる9万トンを達成したものの、平成21/22年産では台風や大干ばつを受けながらも約8万トンが見込まれております。これも適期に畑地灌漑施設による灌水の効果が発揮されたものと

思われます。

しかしながらさとうきびを取り巻く情勢は、WTO農業交渉をはじめ、品目別経営安定対策制度見直しや事業の縮小廃止など、依然として厳しいものがあり、予断の許されない状況にあります。平成21年度では増産プロジェクト基金事業や地域活性化臨時交付金を活用し株揃え機、補植開溝機ならびに小型管理機の導入による面積拡大、単収向上対策の支援を行いました。

今後ともさとうきび増産計画に基づき、株出面積の拡大ならびに株出単収の向上を図るため、土壌害虫対策や早期株出管理を推進するとともに、認定農業者の確保や作業受委託の推進により品目別経営安定対策の本則要件支援対象となるよう、関係機関・団体ならびに地域が一体と



島の食材（カンキツ類など）を利用したジャム

なっており、取り組んでまいります。

畜産振興につきましたは、景気低迷の影響により、子牛価格も低迷が続いておりますが、肉の消費動向については、若干上向いてきています。

そのような中、本町の畜産農家及び飼養頭数も少しずつ増えてきており、それに伴いセリによる出荷頭数も年間1100頭を超えてきております。

これからも自給飼料の確保、飼養管理の指導により繁殖成績の向上を図るとともに、平成18年度からの畜産基盤再編総合整備事業も最終年度となり、飼料畑造成、家畜セリ市場等の施設整備事業を進め、肉用牛の核となる経営体を育成すると共に、産地間競争に負けない足腰の強い肉用牛農家の基盤強化を図ってまいります。

野菜振興につきましたは、重点品目のトマト・メロン・カボチャを中心に振興を図り、栽培講習会等を開催し、新規栽培者の確保、園芸農家の育成と品質の向上を図ってまいります。また、奄美農業創出支援事業を活用したハウス導入によるトマトの増産、面積拡大を推進いたします。また、「安全・安心」の取り組みとしてエコファーマー等の認証制度の取得を推進してまい

ります。

果樹振興につきましたは、タシカン、マンゴーを中心とした幼木（苗木）の栽培管理を重点的に指導し、生産者の確保並びに面積の拡大を図ってまいります。

花き振興につきましたは、キクウイルス病が蔓延して生産量の低下を招いており、病害虫の徹底防除と土壌改良を軸とした栽培管理の推進を図りながら生産量の拡大を図ってまいります。

ゴマ振興につきましたは、21年産は約60トンと台風の影響より20年産と比較し約10トンの減産となりました。昨年農家へ導入したゴマ播種機の活用により、今年度も日本一のゴマ産地として、生産拡大、向上を図りながら安定生産を図ってまいります。

特殊病害虫防除対策については、カンキツグリーニング病は平成19年度以降、感染樹の確認がなく、撲滅に近づいております。来年度には、国の最終確認調査を行い、世界初の根絶を目指してまいります。

また、アリモドキゾウムシは平成22年度より喜界町全域を調査範囲とし、不妊虫放飼やテックス板による密度抑制、トラップ調査と段階的に撲滅を図って

まいります。

営農支援センターにつきましたは、さとうきびの側枝苗や果樹等の苗供給と実証を継続して行ってまいります。また、同センターの施設等を活用して農業研修も行ってまいります。

農産物加工センターにつきましたは、島ミカンのジャムやマーマレード、島ミカンの唐辛子和え、トマトケチャップ等を商品化し、昨年12月から販売を始めております。また、そら豆の皮むきや製粉、ごま洗浄などの委託も多く、年々利用者も増えてきております。今後は、開発した商品の販路拡大や町民への加工技術伝達、新たな加工グループの育成に力を入れ、加工センターの更なる利用促進につなげてまいります。

県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）におきましては、前年度に引き続きムチャカナ地区・第二島中地区の畑地かんがい事業及び農道舗装事業を実施してまいります。また、手久津久地区の区画整理事業も実施してまいります。

県営畑地帯総合整備事業（担い手支援型）におきましては、前年度の土層改良事業及び農道舗装整備事業に引き続き配分予算の範囲内において今年度も実



干ばつ対策に最も有効な地下ダムの水

施してまいります。

海岸保全施設整備事業におきましては、前年度に引き続き、白水と早町の間を計画しております。

基幹水利施設管理事業におきましては、前年度同様、地下ダム施設の機能保全のための施設点検や整備補修を行ってまいります。

農地・水・環境保全向上対策につきましたは、昨年度に引き続き、共同活動の支援を図ってまいります。

林業振興につきましたは、地球温暖化対策や環境保全など森林の果す役割の重要性を認識し、本町におきましても造林・森林管理に取り組んでいるところであります。島の水瓶である百之台地区は唯一の森林地帯であり、水源

涵養林として公益的機能を高めるための整備を森林整備計画に基づき長期的に推進してまいります。

また、海岸においての森林は、台風等の被害軽減を目的とした重要な防災林で、景観対策も含め整備を行って参ります。また、松食い虫被害で喪失した松林は、新たに抵抗性クロマツの造林を継続的に行います。

水産業につきましては、離島漁業の活性化を図るために、離島地域再生支援事業の取り組みを引き続き行ってまいります。また本年度から各種補助金を一本化し漁業の活性化を図ってまいります。

商工業の振興につきましては、通信販売・インターネット販売などの進展や人口の減少等により町内小売店の総売上は、伸び悩み厳しい環境にさらされています。

このことから、昨年度に引き続き町内における購買力の刺激策として、商工会が発行するプレミアム商品券への助成と、また経営悪化が懸念される事業者には、商工会と連携を図りながら経営体質の改善強化、経営安定のための制度資金の利子補給の支援策を本年度も継続し、諸課題克服に取り組んでまいります。

す。

観光につきましては、本町の気候風土が育んだ文化遺産サンゴの石垣や農業が作り出した自然と調和した風景、南の貴婦人オオゴマダラ、渡り蝶アサギマダラ、集団越冬をするリュウキュウアサギマダラや、巨木ガジュマル、史跡、遺跡、文化財など、現存する観光資源、さらには農産物加工センターを有効に活用しながら、交流人口の増加に努めてまいります。

2. 生活と福祉の充実したまちづくり

(生活環境の整備)

(1) 公営住宅・下水道・街なみ環境整備

公営住宅につきましては、本年度から26年度までの新たな5カ年整備計画により、本年度は湾宮戸団地の一部解体と実施設計等を実施してまいります。また、平成26年度以降現在ある市町村が管理する、老朽化した公営住宅ストックについて、予防保全的な維持管理を推進することにより、公営住宅等の長寿命化を図るとともに、住宅管理の経費縮減につなげていくために、本年度『公営住宅長寿命化計画』の策定を実施いたします。

下水道事業につきましては、

平成11年度の事業開始より12年目になり、地域住民のご理解とご支援により順調に推移し既に全体計画の約76%に達し、本年度は、湾、中里地区の対象区域10haを実施いたします。

また、下水道の集合処理と併せて、個別処理の浄化槽設置整備事業補助も前年度に引き続き導入し、下水道受益外の地域においても、衛生的で快適な生活環境整備を推進してまいります。

(2) 簡易水道

簡易水道につきましては、細菌、硬度、亜硝酸性窒素濃度等の監視をするため毎月定期的に水質検査を行い、町民の皆様安心して安全な水を安定的に供給出来るよう日々努力しているところでございます。

平成19年度より5カ年計画で



年度内一部供用開始予定の南部地区浄水場

実施しております南部地区統合整備事業も本年度で4年目になり、浄水場の電気透析設備も9月頃完成し、年度内の一部供用開始を予定しております。

並行して、本管の老朽化による漏水等が顕著な東部地区の基幹改良事業は、本年度で最終年度となり、志戸桶地区、嘉鈍・阿伝地区の本管布設替工事を実施いたします。また、南部地区統合整備事業終了後に開始予定の西部地区統合事業を見据えて、認可設計に着手いたします。

(3) ごみ処理

ゴミ処理施設につきましては、クリンセンターの修繕費も年々かさみますが、定期的な検査の実施により、施設の維持に努めます。

(4) と畜場施設

と畜場につきましては、利用頭数も毎年減少してきている中、建物・設備共に老朽化が激しい状況にあります。しかし、自家用山羊については、本町の郷土料理には、欠かせない食材であり、喜界島の食の文化を絶やさないためにも必要不可欠な施設でもありますので、今後とも施設の維持管理に努めてまいります。

(5) 消費者問題

昨年、国に「消費者庁」が設

置され、このことにより市町村の果たす役割が大きくなってまいります。

住民が安心して生活できるよう関係機関と連携を図り、消費生活相談体制の強化、トラブルや被害の未然防止及び早期解決に向けた支援をしていきたいと思っております。

(社会福祉の充実)

高齢者福祉につきましては、少子高齢化や核家族化が進行していく中、団塊世代の定年退職が始まり、更に超高齢化時代へと突入しつつあります。

本町は、後期高齢者の比率が高く、一人暮らしの高齢者が多数いらっしゃるいますが、「元気」高齢者も多く、自立されている方々のおかげで、国民健康保健や介護保険の事業は順調な運営が出来ております。

これからも健康状態を維持・継続し、寝たきりや認知症にならないために各種施策を推進いたします。

外海離島で一島一町の本町でございますので、限られた人的資源や福祉施設等を有効に活用し、地域ぐるみで支え合い、住み慣れた島で生活が送れるよう、支援を行ってまいります。

後期高齢者医療保険制度につ

きましては、県内市町村が加入する広域連合が主体となつて運営し、各市町村が保険料の徴収や窓口事務を行っています。特例的に実施している保険料の軽減策は本年度も継続してまいります。

老人福祉施設については、入居者に、より快適なサービス提供に取り組み、「老いて幸せ」が実感できるように努めるとともに、今後もより健全で良好な特別会計を維持していきけるよう、歳出抑制に引き続き努力してまいります。

介護保険については、自立した高齢者が多数いらっしゃるため、安定した運営が行われています。

高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活出来るよう、介護事業所等と連携を密にし、きめ細やかな支援を行ってまいります。

地域包括支援センターは、認知症対策や独居老人等の見守り活動等、益々その役割は重要性を増しており、高齢者による相談活動として具体的に身近な相談活動を行っているところであり、また要支援者のケアプラン作成や一般高齢者の活動支援、要介護状態となることの防止事業や権利擁護事業、特定

高齢者の筋力アップ事業等を実施してまいります。

障がい者福祉につきましては、重度心身障害者医療費助成事業や施設訪問旅費助成事業等の経済的支援並びに在宅支援の補装具、日常生活用具給付事業を引き続き実施してまいります。

身体障害者協会、手をつなぐ育成会、社会福祉法人「緑喜会」、障がい者の自立支援施設等、福祉団体の育成に努めてまいります。

児童福祉につきましては、核家族化や女性の社会進出等多様化する家族環境の中で、島の未来を担う大切な子供たちの健全な成長の環境整備に努めてまいります。

保育所は、民間の社会福祉法人「秀心会」が運営しておりますが、入所児童の決定や保育料の決定・徴収等はこれまでどおり町が行います。

民営化に伴い、積極的な延長保育等のサービス向上が図られています。今後とも保護者の要望に応えられるよう連携を密にしてまいります。

子育ての経済的支援策として、児童手当の支給がありますが、児童扶養手当、特別児童扶養手当などと併せて制度の啓発や適正な管理に努め、児童福祉の向

上を図ってまいります。なお、子ども手当の創設等大幅な制度改正が見込まれております。

国民健康保険事業につきましては、高齢化や医療技術の高度化等により増大し続ける医療費の抑制を行い、持続可能な制度とするため、医療制度改革が行われています。

誰でも安心して良質な医療サービスを受けられる制度の安定的運営を行うよう努めてまいります。

健康増進対策については、健康相談や各種検診を実施していますが、中でもがん対策として、胃がん・肺がん・子宮がん・乳がん・大腸がん検診等を実施し、健康な生活が送れるよう取り組んでまいります。

受診率が低迷しているため、早期発見・早期治療による効果を啓発し受診率の向上に努めてまいります。

食生活の欧米化・高カロリー化や運動不足によって起こる生活習慣病ですが、特に、重点的に対策を講じる必要がある疾患として、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧症及び高脂血症等が挙げられています。生活習慣の改善の重要性について、啓発指導を行ってまいります。

母子保健につきましては、妊

産婦の皆さんの経済的負担の軽減を図るため、出産については、島外で出産待機のための宿泊費及び旅費を助成いたします。

妊婦健康診査の公費負担についても14回までに拡充し助成していますが、それらの旅費についても飛行機運賃までに拡充し引き続き助成いたします。

乳幼児健診、生後4ヶ月までの全戸訪問、母子相談、健康教育等の事業も継続して実施いたします。今年度より、5歳児健診を実施し、発達障害のある子どもと家庭の継続した支援を目指します。

心身ともに健全な子どもの育成と、疾病や障がいの早期発見、早期対応に努めるとともに、関係機関との連携により、きめ細かな母子保健を推進してまいります。

診療所の運営につきましては、平成21年度から新たに赴任された医師の下、職員配置を大幅に見直し合理化に努めた結果、収支は改善の方向にあります。今後とも、地域医療の安定のため努力を続けてまいります。

3. 町の活性化を担う人材育成を目指して

『ふるさと』に誇りを持つ教育の充実と『生涯学習のまちづくり』の推進

今年度は昨年に引き続き、冒頭にも述べました喜界町立幼稚園・小学校・中学校の再編整備に向けた取り組みを推進してまいります。

喜界町は、全国平均を上回るスピードで高齢化が進行しつつあります。喜界町が今後とも現在の豊かさを維持し続けるためには、島の経済、産業、文化、伝統などを支える『意欲と能力』を備えた人材育成が現下の最重要教育課題であります。

こうした現状を踏まえ、本町においては、『ふるさと』に自らに誇りを持つ教育を一層推進すると共に、『確かな学力』と『豊かな心』『健やかな体』の育成を重点目標に掲げ、努力している



シマの伝統行事「シチャミ(節浴)」
(坂嶺盛さん宅)

ところであります。

学校教育の推進に当たっては、『喜界島の子どもたちもやればできる』を合い言葉に、『教育の成果を児童生徒の姿で語る』ことを指標として取り組んで参ります。また、教育の成果を上げるには、学校と家庭、地域が連携を密にし、一体となってそれぞれの教育機能を發揮して取り組む必要があると強く考えているところであります。

そこから、平成22年度も、地域に開かれた、説明責任を果たす学校づくりをめざし、各学校が教育目標と実践内容、教育の成果と課題を保護者や地域住民に公開し、『信頼される学校』づくりをするのを全力で支援して参ります。

次に、本町の公立学校施設は、児童生徒の学びの場であるとともに、非常災害時には、地域の緊急避難場所としての重要な役割を果たしています。そのことから、安全対策に十分な配慮が必要であります。本町の学校施設は新耐震基準制定後の昭和56年度以降に建替えがなされていますが、それ以前に建築された校舎等については、年次的に改修工事を行い、子どもたちがより安心、安全で快適な学校生活ができるようにしてま

まいります。

次に、社会教育においては、『喜界町に学びの風を吹かせる』ことを基本理念に、『健康で、心安らぐ、癒しの町』づくりをめざして、町民が心身共に健康で、生涯にわたり、生きがいを持って、充実した人生を送れるよう『学びの場』づくりに努め、全ての人々が気軽に学ぶことができ『生涯学習の町づくり』に取り組んで参ります。

教育の原点は家庭教育にありますが、近年、家庭の教育力の低下が指摘されています。こうした現状を踏まえ、家庭教育に関する講演会の開設や家庭における保護者の教育力を高める『家庭教育学級』の内容の充実等に努めます。

また、本町には先人が守り育ててきた、他に誇れる素晴らしい伝統文化や文化財があります。その継承や保存・活用に努めるとともに、明るく豊かな活力に満ちた人生が送れるよう、スポーツ活動の支援と環境整備にも全力を尽くして取り組んでまいります。

今年、本町で開催される第37回大島地区スポーツ少年団サッカー競技大会の開催に万全の態勢でのぞみます。

体育施設・設備の充実につき

ましては、町民の健康増進とスポーツに対するニーズに応え、現在ある施設の活用を努めてまいります。

4. 地域発展の基盤づくり (町土の有効利用)

農用地につきましては、耕作放棄地の解消、担い手農家への農地集積や優良農地の確保・有効活用と推進指導を図ってまいります。また、農業者の老後の生活安定及び福祉の向上に資するため、農業者年金の加入促進活動に努めてまいります。

地籍調査事業につきましては、本年度は志戸桶、赤連、湾の各一部を実施いたします。地籍調査の成果である地積図、地籍簿については、各種公共事業等の基礎であり、多方面から早急な整備が望まれているところであり、平成21年度末における



総合グラウンドの新管理棟

進捗率は15.38%でございます。

各公園施設や公共施設につきましては、清掃及び除草等を定期的に行い、利用者が快適に利用できるように施設面の環境整備と維持補修に努め、町民並びに観光客に親しまれる施設として円滑な管理運営を図ってまいります。

(交通通信体系の整備)

港湾及び漁港整備につきましては、船舶の安全な航行や係留等を図る為に防波堤(沖)の整備を図ってきております。港湾整備につきましては喜界島港(志戸桶地区)の防波堤(沖)の整備と喜界島港(浦原地区)の防波堤(沖)の整備を継続して整備してまいります。

荒木漁港地域水産物供給基盤整備事業につきましては、西沖防波堤の整備を継続して行ってまいります。

町道等交通基盤整備につきま

しては、平成19年度から継続して整備を参りました「町道池治湾当原線」は本年度で4年目を迎えておりますが、昨年度中から新政権に変わり道路財源等の見直しにより、事業費も圧縮され前年度の70%と大変厳しいものがあります。今後も道路整備については益々厳しくなると予想される中で、当初計画の見直しを余儀なくされるなど、平成23年度以降の計画につきましては、財政状況及び事業効果

等を検討し、取り組んでまいります。

5. 行財政の合理化 (事務処理の合理化)

窓口業務につきましては、正確・迅速・懇切を基本理念に住民サービスのニーズにお応えする業務態勢を職員一丸となって積極的に推進してまいります。

町広報誌は、町民への施策の周知、島の出身者への町の姿や動きをいち早く情報提供、更には「親しまれ、愛される」刊行物として協働・共生の「まちづくり」を推進するため、常に新鮮な情報発信を念頭に本年度も広い視野で取材し、的確な情報を提供致します。

以上、平成22年の町政運営につきまして、「心豊かで活力に満ちたうるおいのまち」を基本理念とし、平成13年に「平成22年度までの10カ年計画」として制定されました、「第4次喜界町総合振興計画」の5つの基本目標にそって所見を申し上げました。

常に「目線を町民と同じ高さ」に置く」を念頭に町政を推進し、将来に希望もてるまちづくりのため精一杯努力してまいります。存でござります。

今年度も、町民並びに議員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



農業青年12人が新たな船出「島の明るい未来は農業で!!」

喜界町農業青年クラブ設立総会

農業成年者間の情報交換や学習活動を通じて農業経営の合理化などを促進し、本町の農業振興に寄与することを目的とした喜界町農業青年クラブは3月15日、幸陽苑で設立総会をした。

最初に、設立準備を担当した町産業振興課が同クラブの趣旨説明と設立の提案をし、全体の拍手で承認された。議事では同課職員が進行役となり、第1号議案「喜界町農業青年クラブ規約(案)」が提案され、承認された。第2号議案「平成22年度役員選定について」は、予定された候補者が承認された。各役員は次の

とおり(敬称略)、

- 会長 南村 和弥(志東)
- 副会長 益田 幸直(荒木)
- 書記会計 杉保 紘三朗(湾)
- 監事 佐藤 宗子(阿伝)

選出された4人は壇上で、「農業青年が勉強し語り合う場ができた。農業を通じて生活をどう良くし、島の明るい未来にどう関わってゆけるか。これから模索し学びたい」(南村会長)などと、それぞれの決意と抱負を述べた。

引き続き南村会長を議長として、第3号議案「平成22年度活動計画(案)」並びに収支予算(案)が審議・承認された。主な活動内容は、農業技術研修や簿記およびパソコン研修、他に会員勧誘やシマ興し祭りをはじめとする町内の各種イベントへの積極的な参加など。

議事終了後にあつた各関係機関の来賓あいさつで直島秀守副町長は「南村会長はじめ皆さんの言葉を聞いて頼

り、抱負を述べる初代役員(右から南村会長、益田副会長、杉保書記・会計、佐藤監事)



設立総会の様子

もしく感じました。現在取り巻く閉塞感の中、農業で人生を切り開こうとすることこそ価値があります。創意、工夫、努力を重ね、島の気候風土にあつた農業経営をされ、農業だけでなく島全体をリードしてください」と期待した。

なお、サトウキビや畜産、果樹園芸などを栽培する12人の農業青年が、今回の設立名簿に名を連ねた。

地下ダム事後評価委員が来島 現地調査や農家と意見交換

九州農政局は3月9-10日、国営事業事後評価技術検討会委員による喜界地区現地調査意見交換会を町役場などで開催した。



意見交換会の様子

今回は、民間からなる4人の九州農政局技術検討会委員の外、同農村計画部長以下6人の職員が同行した。

意見交換会では、地元首長としてあいさつした加藤啓雄町長が「農業が主たる産業で平地に恵まれた喜界島は、昭和40年から区画整理事業をしてきた。地下ダム整備後は畑地帯総合整備事業で畑地かんがい施設も90%以上のほ場を潤している。昨年の大干ばつで他地域がキビ減収の中、喜界だけ増収であった。また、水の使用料の滞納がないことも、農家にとって地下ダムが有意義に使われていることの証明」と話した。

他に、九州農政局から国営かんがい排水事業(地下ダム整備)、県喜界事務所から県営畑地帯総合整備事業(スプリンクラー設置や畑地整備)の概要説明があつた。

また、喜界土地改良区や農産物加工センターなど各施設の現地調査や畑地かんがい施設を有効利用する花きやさとうきび農家のほ場を翌日まで現地調査した。

委員らは「サトウキビ畑にスプリンクラーが目立ち、ハウスなどの施設園芸も多い。地下ダム用水の利用効果が現れている」と評価した。



現地調査の様子(永井嘉文さん選花場)

「島外からシマの発展に協力したい」

田向勝大さんが情報収集のため帰郷

千葉大学園芸学部4年(当時)の田向勝大さん(先山出身)が3月9日から11日まで、この4月に進学した慶應義塾大学大学院での研究テーマの情報収集を目的に帰郷した。同院では政策・メディア研究科に籍を置いている。

慶大大学院では離島(地域)活性化や関連する流通について研究するという田向さんは加藤啓雄町長を訪問し、島産の特産品を加工した島外業者の商品などを紹介するなどしながら、島の活性化に関連する提言などをした。町企画課では、町が取り組んでいる「日本で最も美しい



ソラマメ茶を手に説明を受ける田向さん(加工センターにて)

島での滞在を終え田向さんは「他の地域では、高齢化や人口減が進んで疲弊した後に外部からの知恵で活性化を図ろうとすることが遅れ。人口減は都市部も

村」連合事業や地元の資源を活かした産業振興方策などを聞き取りしながら情報交換した。田向さんは「これらの情報を大学院で選定・検証し、具体的に形あるものとして町へ再提案したい」と話した。

次に農産物加工センターを訪れ、特産品の開発・情報発信・流通などのマーケティング全般について聞き取りし、より具体的な研究材料の収集をした。

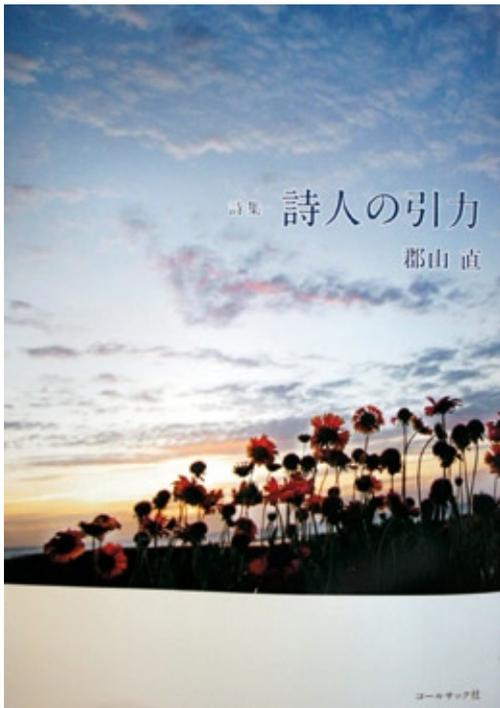
島での滞在を終え田向さんは「他の地域では、高齢化や人口減が進んで疲弊した後に外部からの知恵で活性化を図ろうとすることが遅れ。人口減は都市部も悩む日本全体の難題なので仕方ない。まだ島は元気があり、一町一島のメリットを活かしながら、人口が大幅に減っても自立できる体制づくりを今のうちに」と訴え、「島に帰って頑張っている同級生が多く、刺激を受けている。私は島外から島の活性化の手助けをした」と目標を話した。

郡山直さん(花良治出身)

詩集「詩人の引力」を出版

本町花良治出身で、東洋大学文学部名誉教授の郡山直さんはこのほど、世界26ヶ国の教科書に採用されている自身の英語詩66篇を日本語に翻訳し、詩集「詩人の引力」として出版した。

郡山さんは、米国留学中から英語で詩を書き始めて以来、英語の詩作をライフワークとしている。初めて掲載されたボストン市の地元紙には、帰国後も約70篇が掲載され続けたという。その一連の詩が米国、カナダ、オーストラリア、南アフリカの小・中学校や高校用の英語教科書に採用された。現在では、ス



詩集「詩人の引力」 郡山 直

コールサック社刊(定価:1500円)

ペイン語など英語以外にも訳され、世界26ヶ国の教科書に採用されている。

戦中派である郡山さんは当初、戦争のもたらす悲惨さや今なお戦争を続けることの愚かさをお訴えしようと、日本語による「反戦短歌集」を出版する予定だったが、周囲の助言により自身の英語詩の和訳集を出版することにしたという。今回の詩集は、若き詩人へ贈る詩、自然を慈しむ詩、平和の尊さを訴える詩、ふるさと喜界島についての詩など、5章66篇が収録されている。

※ここで、収録された詩の中から一篇を紹介します。

恋歌

僕たちの島の先祖たちは 月光を縦糸に 潮騒を横糸に 美しい調べを 幾世代にもわたり 島の空のもとで織ってきた あなたの足の白足袋は 「島のブルース」のうっとりする曲に合わせてフロアの上で なめらかに踊っている すると一種表現できない感情が 僕の胸の血のなかに流れる あなたの髪は この広い青い海に 囲まれた僕たちの島の 岡に咲く 百合の花より芳しい (詩中の空白は改行)

郡山直さんの略歴

1926年生、本町花良治出身。鹿児島師範学校や沖縄外国語学校を卒業後、5年間の米国留学を経て東洋大学文学部の教壇に立つ。1997年(平成9年)に退職し、現在は同大文学部名誉教授。また、世界各国の行く先々で『六調』を披露するほど島を愛しており、奄美民謡の研究者としても知られる。奄美民謡の英訳詩集「輝く奄美の島唄」など、多数の著作や翻訳物がある。



体験しよう!! 「みんなで楽しくボランティア」

喜界町社会福祉協議会

喜界町社会福祉協議会（西保理介会長）は2月27日と3月6日、中高生などを集め、平成21年度のボランティア講座を開催した。

開講のあいさつで同協議会の界田満仁事務局長は「ボランティアは人や地域のためであるが、実は自分のためでもある。今回の講座や体験を、今後に活かしてもらえれば」と話した。

1日目は、鹿児島県社会福祉協議会ボランティアセンター所長の瀧脇隆一さんが「みんな楽しくボランティア」と題して講義をした。

講義で瀧脇さんは「ボランティアは『やってあげる』ではなく『より多くのものをもらう』もの」と切り出し、日本で



講義した県社協の瀧脇さん

の「ボランティア元年」とされ、137万人がボランティア活動した「阪神・淡路大震災」の様子を、自身が参加した体験を交えて紹介した。

また、「忙しい人ほどボランティアをしており、ヒマな人ほどしていない。地域や身の回りにも対象があり、自分のできる範囲のことを楽しくするのがボランティア」と指摘し、「ゴミ清掃や植林などの作業（環境を守る）」「中古衣料やベルマーク、募金（あつめる）」「臓器バンクへの登録や献血、交通安全指導などの（命を守る）」「盲導犬の飼育やガン患者への髪の毛提供（その他）」など、大きく8つに分類できるボランティアの種類を説明した。

最後に瀧脇さんは、南米・アンドレス地方に伝わる寓話、『ハチドリの一としずく』を紹介して講義を終えた。

次に、「車イス体験」があり、段差の際の使用法や、利用者の視点にたち、実際に座つての車イス体験をした。

受講した松山美喜さん（早中3年、当時）は「車イスの押し方は状況によって色々あること



車イス体験の様子

が分かった。今日でボランティアへの理解を深めることができた」と話した。

「ハチドリの一としずく」

ある森で山火事があり、森の動物たちが「われ先に」と逃げまどう中、あるハチドリだけはクチバシで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落とすとしていった。他の動物たちはそれを見て「そんな無駄なことをしてどうする」と笑ったが、ハチドリは答えた「私は、私にできることをしているだけ」

※2日目については、町社会福祉協議会の大友勝仁さんの報告を紹介します。

2日目は「レクレーション体

験」でした。今回は、奄美市社会福祉協議会事務局長の山田豊裕さんを講師に招きました。山田さんはレクレーションのエキスパートであり、喜界町役場の生涯学習課からも度々レクレーションの講師として招かれています。

高齢者の介護予防にもレクレーションは重要視されており、軽く体を動かし、かつ楽しむことで心の健康にもつながります。ちなみに、野球やバスケットボールは、もともと非行少年の更生のために生まれたといわれています。少年院で野球を覚え、後に大リーグでスーパースターとなったベーブ・ルースなどは、レクレーションの効果を表すよい例だと思えます。

喜界町社会福祉協議会でも、介護予防の「いきいきサロン」として、毎月12か所で2時間のレクレーションを実施しています。

「レクレーション体験」は、実際にゲームを体験。指遊びでは、5本の指をそれぞれ1・2・4・8・16の数字にみたくて、指をたてて数字の1から31までを作っていく頭の体操をしました。

また、ゲームでは特別な道具は使わず、お金をかけないシンプルなゲームを中心に構成され

ていました。

ジャンケンをして勝った人は動かず、負けた人は動いて次の相手を探し、またジャンケンをするというゲーム。

またグループ5人に紙で作ったお金「20万円」を渡し、別のグループの相手を探しジャンケンをし、勝ったら相手から「1万円」をもらえろというゲーム。最終的にどのグループが一番お金をもっているか、というゲームです。笑い声が絶えず、楽しい雰囲気で大いに盛り上がりました。

早町中学校の男子生徒は「やってみると意外と楽しかった。機会があつたらいきいきサロンなどでボランティアをしてみたい」、喜界高校の女子生徒は「お金をかけなくても楽しめることがわかりました」と感想を述べました。



みんなで楽しくレクレーション

幼児から大人まで
フットサルで
心地よい汗を！

総合型地域スポーツクラブ

設立準備委員会主催

第2回スポーツ教室

3月13日・14日の両日、喜界町体育館で県フットサル連盟技術指導員とキッズサッカーインストラクターを講師に招き、標記スポーツ教室を開催いたしました。

サッカー以外の部活動・スポーツ少年団への加入や障害の有無男女の別などにかかわらず誰でも参加できるもので、2日間にもわたり延べ120名の幼児から大人まで参加しました。

指導内容は、体を動かす楽し



2日目の園児・小学生を対象としたフットサル&キッズサッカークリニックの様

さから始まり、ドリブルやパスなどの基本的な動作、相手・見方の動きを見ながら、いかに点を取るかとといった戦略面まで御指導いただきました。

最後にフットサルの紅白試合も行われ、サッカー大好きなキッズは疲れを見せることなく取り組んでおりました。

なお、県フットサル連盟よりフットサルボール5個、ゴール1組、ビブス1セットの寄贈がありました。紙面をお借りし、お礼申し上げます。

2010年は『国民読書年』
『いつも身近に一冊の本を』

”じゃ、読もう。2010年、国民読書年。“ ストレートにアピールするこの標語で2010年は始まりました。”じゃ、読んでみよう。“と思いつくのが町図書館。

羽里出身の実業家長島公佑氏の寄贈により昭和60年4月にオープンし、4月で満25歳になります。

蔵書冊数五万八千二百六十八冊。配架雑誌四十数タイトル、

講読新聞八紙。CDなどの視聴覚資料が7百タイトル。年間の貸出六万八百七十二冊、住民一人当たりの貸出は、県内七十三図書館の中で第5位。旺盛な喜界町民の読書意欲に応えんがため、の図書購入費は年間280万円、町民一人当たりの図書購入費としては県内第4位。そんな島の図書館であります。”じゃ、読んでみよう。図書館の本も。”そんな皆さんの御利用を、職員一同、心待ちにしております。

なお、国民読書年の取組として関連イベントも企画しておりますので、詳細については図書館だよりでお知らせいたします。

平成22年度 町教委行事予定

【総務課関係】

- 家庭学習サポート教室〔やる気塾〕開校式 (5月下旬)
- 第1回学力向上対策会議 (7/18)
- 第6回町子ども議会 (7/27)
- 一中、早中運動会 (9/12)
- 二中、上幼・小、坂小、荒幼・小、滝幼・小、早幼・小、志幼・小、小幼・小運動会 (9/19)
- 湾小、阿小運動会 (9/26)
- 第45回町小学校陸上記録会 (10/28)
- 第2回学力向上対策会議 (3/6)

【生涯学習課関係】

- 中央公民館講座合同開講式 (4/25)
- 第37回大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会〈サッカー競技〉 (7/25)
- 第48回町民体育祭 (10/10)
- 第45回島内一周駅伝競走大会 (11/14)
- 中央公民館合同閉講式・公民館祭り (12/12)
- 喜界町成人式 (1/2)
- 島唄・島ゆみた大会 (2/20)

以上、主な事業のみを掲載

喜界島の皆さん、ありがとうございました

小出水 明洋

私は小学校の教員として16年過ごし、3年前に喜界町教育委員会指導主事として赴任しました。

指導主事の立場で見た喜界島の子どもたちの良い点は、「心のこもったあいさつをする」「素直で思いやりの心をもっている」「運動好きである」などと思っています。逆に、やや不足していると思う点は「運動・遊びと勉強のバランス」です。

子どもが勉強より運動・遊びを優先させるのは当然です。勉強が「苦」であり、運動・遊びが「楽」だからです（最近はこのことが逆の子どもも増えていますが・・・）。

教師が宿題を出す理由のひとつは、「させる」ことで自ら考え、創造する子どもを育てるためです。ですから、小・中学生の保護者の皆さん、まずは宿題をきっちりさせましょう（偉そうなことを言いながら、わが家では子どもに何も言わず、妻に任せっ放しの指導主事ですが・・・）。

私は今回の異動で、幼稚園から高校まで過ごした始良市の教育委員会に赴任しました。

喜界島での3年間は充実していました。島で学んだことを生かし、新任地でもがんばります。3年間、本当にありがとうございました。



すこやかニューズ

すこやかセンター (☎65-3522)

集団健診の受付が 始まります!

今年の健診の予定は
★厚生連：7月5日～7月11日
★医師会：10月15日～10月20日
です。

4月に一括申込書を各ご家庭に配布しますので、今年の健診の希望を書いて提出してください。

また、今年度40～74歳の方は特定健診の対象です。受診される方が少ないと、皆さまの今後の国民健康保険税が増額になる可能性もあります。1年に1度は健診を受けて、ご自分の健康状態をチェックしましょう!



136人の 認知症サポーター誕生

2月3日、役場コミュニケーションホールで認知症サポーター養成講座が行われました。

認知症は、誰でもなる可能性のある病気ですが、周囲の理解や気遣いがあれば穏やかに地域社会で暮らしていく事が可能な病気でもあります。

そのためには地域の支え合いが必要とされています。誰もが認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手立てを知っていれば「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。そのような喜界島を実現させるために、136人の町民の皆さんが認知症について学びました。

喜界徳洲会病院の田中誠院長による講演では、「認知症は記憶がスッポリ抜け落ちる病気、本人は自分の身に何が起こっているのか判らず、不安でたまらない。認知症の人が暮らす世界観を想像して接してあげて欲しい。早期であれば、進行を遅らせる事ができる場合もあるので、早めに受診して欲しい」と訴えた。

認知症の人と家族の会/鹿児島支部(やすら木会)の水流涼子会長は、認知症の人への対応

の心得として「1. 驚かせない。2. 急がせない。3. 自尊心を傷つけない。」を挙げられ具体的な対応について説明をしました。

また、「認知症介護は病気を受け入れるまでに葛藤があり時間がかかる、独りで悩まないで相談して欲しい」と話されました。下記の相談窓口をご活用下さい。

認知症家族交流会に 参加されませんか?

認知症サポーター養成に先立ち、役場研修室にて、認知症家族交流会が実施され9名のご家族が参加されました。

皆さん、えている悩みや不安を吐き出し、共有するなかで、自分だけじゃない、仲間がいるという安堵感が広がっていく様子が伺えました。自分では、解決できない問題もグループの中で癒せるかもしれません。

認知症サポーター養成講座、認知症家族交流会の詳細については、すこやかセンターにお問い合わせ下さい。

認知症の人と家族の会

☎099-257-3887

(火・水・金曜日の午前10時～午後4時) ☆相談は無料です。

すこやかセンター

☎65-3522

〔喜界園〕と〔はまゆり学園〕の間。〔中央公民館〕の裏にあります。

予防接種を受けましょう!

平成20年度から中学1年生と高校生3年生のMR(麻しん風しん)の予防接種を実施しています。これは、小さい頃に予防接種を受けていても免疫が付いていない又は低下しているお子さんの免疫をしっかりとつけること、これまで接種を受けていないお子さんに受けてもらうことを目的としています。平成24年度まで実施します。高校3年生までのお子さんで、接種時期に受けられなかった方はすこやかセンター(☎65-3522)までご相談下さい。また、転入された7歳までのお子さんは予防接種記録を確認させていただきますので、母子手帳を持って、すこやかセンターまでお越し下さい。お待ちしております。



3歳児健診でむし歯ゼロだったよ!



今村優一郎くん



佐藤高太郎くん



森ユメ・トニヤカオちゃん



生野麗亜ちゃん



福田春琉くん



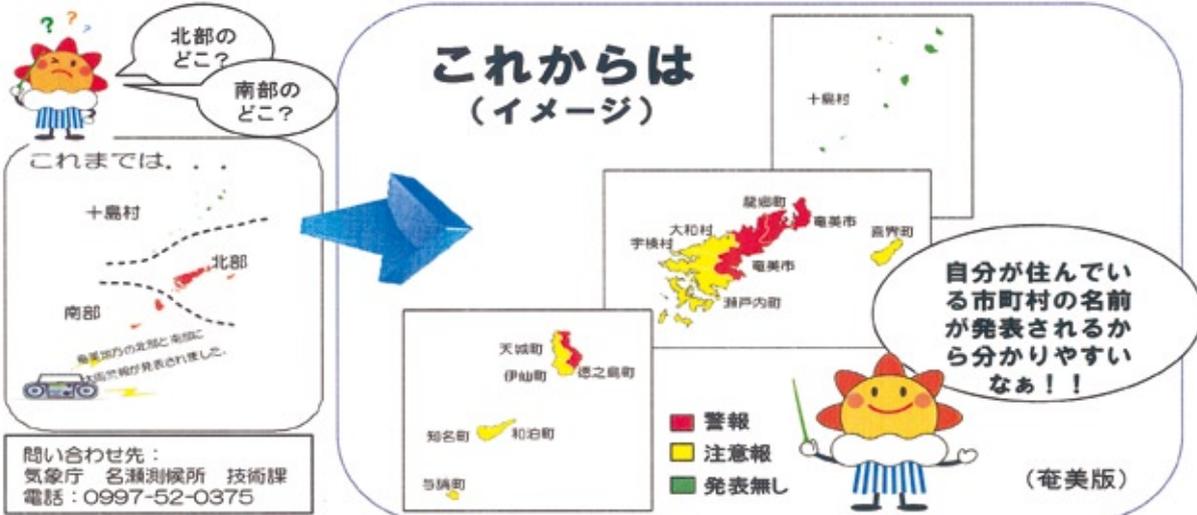
瀧脇健将くん



濱井友里ちゃん

気象庁は警報・注意報を市町村ごとに発表します！

気象庁は、今年5月27日（予定）から気象に関するすべての警報・注意報を市町村ごとに発表します。現在、名瀬観測所では警報・注意報を、奄美地方の「十島村」「北部」「南部」の3地域に細分して発表していますが、発表区域を市町村ごとにする事で、どこを対象に警報・注意報が発表されているのかが分かりやすくなるなどのメリットがあります。



協会けんぽ（全国健康保険協会）の健康保険料率が平成22年3月分（4月納付分）より大幅に上がります

鹿児島支部保険料

現行	平成22年3月～ (4月納付分)
8.22%	9.36% (全国平均9.34%)

*協会けんぽの健康保険料率は毎年度見直され、都道府県毎に設定されます。

*40歳から64歳までの方（介護保険第2号被保険者）は、これに全国一律の介護保険料率（現行1.19%→1.50%に変更）が加わります。

大幅上昇の背景

経済状況悪化に伴う保険料収入の減少

一昨年来の世界的経済不況の影響から、失職等による保険加入者の減少や給与額などの減額に伴い、協会けんぽの保険料収入は近年でもかなり低いレベルまで落ち込んでいます。

高齢化に伴う医療費の上昇

高齢になるにつれ医療機関等にかかることが多くなり、治癒までにかかる期間や支払う医療費も多くなる傾向があります。近年の高齢化に伴い、協会けんぽが支払う医療費も増加の一途をたどっています。

協会けんぽの健康保険料率については、景気の悪化に伴い保険料収入が大きく落ち込む一方、医療費の支出は増え続けているという厳しい財政状況から、大幅な引き上げを行わざるを得なくなりました。

厳しい経済情勢の中で大変な負担増となりますが、今後鹿児島支部としましても、加入者の皆様が安心して医療サービスを受けられますよう医療費の適正化等に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

***改定後の保険料額表は平成22年2月分の保険料納入告知書に同封してあります。**

インターネットで島の特産品を売りたいけど・・・

EC (電子商取引) コーディネーターに御相談下さい!

（財）かごしま産業支援センターでは、鹿児島県からの委託により「EC (電子商取引) コーディネーター設置事業」を開始しました。

この事業は、中小企業の情報化推進の一環として、当センター内にIT・EC全般に精通し、個々の中小企業に最適なECの導入・活用、課題の解決などを具体的に助言できる常勤の専門家（ECコーディネーター）を設置することにより、県内中小企業からの多様な相談・派遣ニーズに即応する体制を整備し、IT全般の支援能力を強化するとともに、県内中小企業における電子商取引の導入・活用を促進するためのものです。

◆EC (電子商取引) コーディネーター

- ・ホームページを開設したい。
- ・ホームページへの訪問者数が少ない。
- ・インターネットでの販売を始めたい。
- ・いまのインターネットショップを改善したい
- ・検索エンジンで上位に表示できるようになりたい。



など、インターネットを活用したビジネスの「始め方」や「改善ポイント」を皆様と御一緒になって考えさせていただきます。

いつでもお伺いしますので、お困りのことがありましたら、気軽に御相談ください。

●問い合わせ先● (財) かごしま産業支援センター 情報支援課

☎ 099-219-1275 FAX 099-219-1279 E-MAIL: info@po.kric.or.jp

喜界高校 生涯学習県民大学 受講者募集

講座内容 **パソコン講座** (表計算エクセル入門)

応募資格 町内在住で、全9回のうち6回以上の出席が可能な方

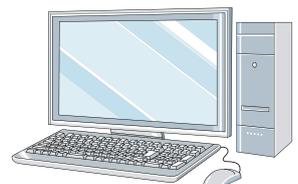
応募方法 往復ハガキに次の①～⑤を記載し、郵送にてご応募ください。
①氏名 ②住所 ③電話番号 ④生年月日・満年齢 ⑤性別

応募締切 平成22年4月28日(水)

募集定員 20人(応募者多数の場合は抽選) ※ハガキで結果をお知らせします。

講座期間 平成22年5月8日～7月17日の土曜日 午前9時～11時
※毎週または隔週の土曜日に2時間実施、全9回18時間、教材費1,000円程度

開講場所 喜界高校4棟3階パソコン室



応募先: 〒891-6201 喜界町赤連2536
鹿児島県立喜界高等学校 商業科 担当: 向吉 光一・後野 勝広
☎ 65-0024 FAX 65-0217

平成 22 年度 役場職員 人事異動一覽表 (平成 22 年 4 月 1 日付)

昇格	氏 名	新 任 職	前 任 職	昇格	氏 名	新 任 職	前 任 職
(課長級)							
	藤本 安満	総務課長	建設課長	○	竹内 功	教育委員会生涯学習課 公民館係長	生涯学習課公民館主査
	隈崎 悦男	建設課長	水環境課長	○	原田 久吉	大島地区消防組合 喜界分署係長	大島地区消防組合 喜界分署主査
○	秋田 達磨	水環境課長	水環境課技術補佐	○	市山 茂	大島地区消防組合 喜界分署係長	大島地区消防組合 喜界分署主査
○	金江 茂	保健福祉課長(兼) 国保診療所事務長	保健福祉課長補佐	(主査級)			
○	孝志 真人	早町支所長	総務課長補佐(兼) 財産管理係長		愛 隆 治	大島地区農業共済 組合出向	建設課空港管理事務所
○	吉岡 強	産業振興課参事(兼) 営農支援センター所長	産業振興課長補佐(兼) 営農支援センター所長	○	柳 卓也	税務課主査	保健福祉課主事
○	吉本 実	教育委員会生涯学習課長	総務課長補佐(兼) 選挙管理委員会事務局長	○	榮 良治	保健福祉課主査	総務課主事
○	久保 一丸	農業委員会事務局次長(兼) 次長	建設課長補佐	○	仲 悟	総務課主査	総務課主事
				○	寿 満夫	老人福祉施設主査	老人福祉施設主事
(課長補佐級)				○	岡田 勝昭	教育委員会 給食センター主査	教育委員会 給食センター主事
	富 充弘	保健福祉課長補佐	産業振興課加工センター所長	○	澄田 和典	保健福祉課主査	保健福祉課主事
	武藤 裕和	総務課長補佐(兼) 財産管理係長(兼) 選挙管理委員会事務局長	企画課主幹(兼) 観光係長	○	碓山 貴文	水環境課主査	水環境課主事
	初 秀樹	住民課長補佐	住民課長補佐(兼) 生活環境係長	○	田向 英昭	農業委員会事務局主査	農業委員会事務局主事
	竹内 功	水環境課技術補佐(兼) 水道建設係長	水環境課主幹	(一般職)			
	小林 学	産業振興課営農支援 センター所長補佐	農業委員会事務局次長		久 郁也	保健福祉課	教育委員会生涯学習課
	和田 政次	産業振興課加工センター所長	産業振興課主幹(兼) 営農支援センター係長		西岡 恵理	生涯学習課	会計課
○	孝田 莊屋	保健福祉課地域包括 支援センター主幹	保健福祉課地域包括 支援センター係長		盛山 由香	保健福祉課	保健福祉課保健センター
○	豊 雅則	建設課長補佐	水環境課係長		澄岡 辰弥	水環境課	建設課
○	得本 拓	教育委員会生涯学習課 図書館・公民館補佐	教育委員会生涯学習課 図書館係長	(幼稚園)			
○	中村 幸雄	総務課主幹(兼) 財政係長	総務課財政係長	○	乾 みち子	湾幼稚園主任係長	幼稚園係長
○	盛 実	建設課主幹(兼) 土木係長	建設課土木係長	(出向)			
○	生田 吉一	大島地区消防組合 喜界分署主幹(兼) 警防係長	大島地区消防組合 喜界分署係長		金久 貴人	奄美大島地区 介護保険一部事務組合	企画課
○	登行 広	大島地区消防組合 喜界分署主幹(兼) 予防係長	大島地区消防組合 喜界分署係長	(新規採用)			
○	松元 秀雄	大島地区消防組合 喜界分署主幹(兼) 救急係長	大島地区消防組合 喜界分署係長		碓山 あゆみ	会計課	
○	前泊 哲治	大島地区消防組合 喜界分署主幹(兼) 庶務係長	大島地区消防組合 喜界分署係長		上間 勇喜	産業振興課	
(係長級)					廣司 泰樹	企画課	
	安藤 哲子	保健福祉課保健センター係長	老人福祉施設係長		園田 裕一郎	総務課	
	徳 勝志	企画課商工観光係長	税務課国保係長		中村 祐子	保健福祉課 地域包括支援センター	
○	俊山 励子	水環境課庶務係長	保健福祉課主査	(退職者) 平成 22 年 3 月 31 日付			
○	横山 ひろ江	老人福祉施設係長	保健福祉課主査		新原 一雄	(定年退職)	総務課長
○	向井 大吾	税務課係長	税務課主査		益 一幸	(定年退職)	教育委員会生涯学習課長
○	富田 道夫	教育委員会総務課 学校再編担当係長	大島地区農業共済組合		基井 宏信	(定年退職)	保健福祉課長(兼) 国保診療所事務長
○	喜島 正樹	農業委員会事務局係長	産業振興課主査		前岡 重加太	(定年退職)	農業委員会事務局次長
○	植村 義彦	企画課係長	企画課主査		高田 えつみ	(定年退職)	早町支所長
○	吉田 圭志	総務課係長	総務課主査		久永 照光	(定年退職)	住民課長補佐
○	平馬 尚樹	税務課係長	税務課主査		松村 千佐子	(定年退職)	老人福祉施設介護師長
○	來 広枝	住民課係長	住民課主査		恵畑 栄子	(定年退職)	老人福祉施設介護師
○	岡田 史子	保健福祉課 保健センター係長	保健福祉課地域包括 支援センター主査		体岡 光子	(早期退職)	保健福祉課地域包括 支援センター主幹
○	上地 義隆	産業振興課係長	産業振興課主査		春山 瑠美子	(早期退職)	保健福祉課主査
					中村 誠子	(早期退職)	老人福祉施設看護師
					久永 初代	(早期退職)	税務課係長

異動 57 名、新規採用 5 名、退職者 12 名



人力車とリキシャが相次いで来島!!

日本で一番長い「婚前旅行」を日本一周で!!
伊勢から伊勢へ1万キロ



出会った人々との触れ合いも旅の喜び

三重県伊勢市にあつた人力車の持ち主に想いをぶつけ借ることができる。その間に、早朝、早町港にいた二人は明るくなるのを待って、さっそく早町小を訪問。初めて見る人力車に児童らは興味津々で、乗ったり

昨年3月から、人力車で日本一周の旅を続ける東京在住の山田祥平さん(31)と中川水帆さん(27)が3月17日、喜界島に立ち寄った。京都大学在学中から観光案内の人力車を引いていたという山田さんは、人材教育コンサルタント会社に就職するも、人力車という夢に生き

の想いと情熱に共感した伊勢市長はじめ100人の市民から見送られ、再び伊勢の土を踏むべく日本一周の旅を北に向かつてスタートさせる。東京では、パートナーとなる中川さんと運命の出会いを果たし、何と一週間で婚約。その後、一人旅から二人旅となり、東北、北海道、佐渡島を経由しながら北陸、山陰をつたって九州入り。さらに、福岡から佐賀、長崎、熊本を走り抜け、フェリーきかに飛び乗った。沖繩を折り返し地点に設定する二人は当初、奄美大島に向かうべくクイーンコーラルに乗船する予定だったが、これまで訪問した先々で喜界島の名を耳にしており「何かの縁かも」と、引かれるように喜界島を目指したという。



早町小のチビッコらと触れ合う

引いたりしながら二人と交流した。また、早町小を後にした二人は島内一周に向かい、道中では親しげに声をかけられたり、黒糖やムッチーを差し入れてもらったりと、多くの島民との出会いがあつたという。

取材中も度々話しかけられたり、写メ(携帯電話カメラ)を向けられる二人は島の印象を聞かれ「空が広く、海と緑がきれ

い。何より島の人たちはフレンドリー過ぎず、冷た過ぎず、自然にふれ合えるのがうれしい」と答えた。また、人力車で日本一周の旅を続ける意義を山田さんは「人力車が持つ人を笑顔にする力を通して、出会った人が私たちの夢に生きる姿に、何かを感じてもらえれば」と話した。平成22年11月22日(いい夫婦の日)に伊勢市へゴールする二人は、その場で結婚式を挙げるという。

「ひとびとの表情」を撮りながら、リキシャで日本縦断中。 | 写真家、三井昌志さん(東京) |

バン格拉ディシユの国民が日常の足として使っている人力車と自転車を組み合わせた「リキシャ」(語源は人力車)で、日本縦断に挑戦する東京都在住の写真家、三井昌志さん(35)が3月26日、喜界島に立ち寄った。

三井さんは機械メーカーに勤務した後、2000年から10ヶ月に渡りユーラシア大陸を旅するなど、アジアを中心に37ヶ国を訪れながら、人々のありのままの表情をカメラに収めている。また、旅行記や写真集の出版もしている。

三井さんは、この4月から沖繩をスタートし北海道をゴールに日本縦断に挑戦する。本来は、東京発那覇行きフェリーありあけで沖繩まで移動する予定だったが、昨年、同フェリーの海難事故により断念。沖繩へは「リキシャで撮影の旅」と予定変更したという。

バン格拉ディシユで描かれた色鮮やかな塗装も相まって島民の注目を浴び、「気軽に声をかけてもらったり、黒砂糖をいただいたりした」という。また、「リキシャに乗りたい」との希望者には「5円(ご縁)タクシー」を営業。取材を受けた昼過ぎには「もう何人か乗せましたよ」と笑った。売上げは、NPOを通じてバン格拉ディシユの教育支援に使われるという。

人々の表情をカメラに収め続ける三井さんは「喜界島の人たちは表情が魅力的」と話し、翌早朝、新たな出会いを求めて奄美大島へ渡った。



リキシャで日本縦断する三井さん

喜びの島音楽祭



篤姫の感動を再び 吉俣 良コンサート

2010年5月7日(金)

場 所・喜界町体育館

開 場・18:30 開演・19:00

入場料・全席自由席 一般 2,500円 (当日 3,000円)

高校生以下 1,000円 (当日 1,500円)

出演：吉俣 良 (ピアノ)
真部 裕 (バイオリン)
dokidoki
喜界高校吹奏楽部
喜界島混声合唱団



主 催：吉俣 良コンサート実行委員会 企画制作：d-music オフィス・サバニ

後 援：喜界町 喜界町教育委員会 喜界町観光協会 喜界町商工会 喜界ライオンズクラブ
喜界町青年連絡協議会 (株) セントラル楽器

問い合わせ：吉俣良コンサート実行委員会事務局 0997-65-0930 (オフィス・サバニ)



SABANI LIVE スケジュール

4月15日(木) 樋原 海ギター1本ライブツアー

5月28日(金) shy Live in Kikaijima

島内バンド／島唄／ライブ情報は SABANI ホームページで!!

<http://www.office-sabani.com/>

お問い合わせ 0997-65-0930 (サバニ)

喜界歌壇

〈ミーニシ会〉

子や孫や家族に日々を包まれて
 老いの奥処おくかに点る灯りとも火あか

林 蓮香

有り余る時間生かして短歌を詠み
 ゲートボールを生きる糧かてとす

有村 道子

窓を打つ嵐あざなながら逝いきし友
 吾と同期に短歌うたを始めし

平尾 チヨ

寒に耐え強くなりゆく竹の節
 人の世の苦も道なれば樂し

美代 イシ

はるかなる大空渡り師は逝いきぬ
 教え給たまいし楽がくの音ね永とわ久ちに

弥島 幸子

迷いひとつ払はらむと顔上げしとき
 冬日に淡あくクレマチス咲く

嶺倉 祝子

〈萌葉会〉

突然の叔母の入院点滴に無事を

祈りて見つめて居りぬ

平島 初子

ふるさとの口養支ふしきさとうきび
 天あまにたなびく糖菓の煙

豊島 瞳

しとしとと風にゆられて同じ葉に
 ふたつは出会い共に落ちゆく

徳 成寿

戸籍の窓

こんにちは

赤ちゃん

氏 名 保護者住所

繁山 奏太 喜智赤連

蔵満 祐泉 祐樹赤連

西村悠士朗 庸志中里

竹下 夢人 鳴人志戸桶

南木 美咲 純一池治

長峯 明愛 弘明赤連

澄江遼太郎 剛 湾

中島 花凜 洋輔 湾

ごめい福を

お祈りします

住所 氏名 年齢

湾 鶴田 重六 83才

上嘉鉄 前田 實吉 89才

大朝戸 朝野 四一 86才

嘉 鈍 加島キヨノ 75才

荒 木 久保イソ子 75才

小野津 山田 力造 73才

白 水 吉山 次雄 86才

中 里 高野千代子 87才

手久津久 瀧 生山 良子 83才

瀧 ハツ 87才

社協だより

■香典返し(敬称略)

小野津 宮崎 富隆
 上嘉鉄 富村 利正
 上嘉鉄 前田 勇吉
 中 里 横山 彦次
 上嘉鉄 原田 松枝
 大朝戸 渋谷 喜代

税で創る、あかるい未来

4月末は

軽自動車税

の納期限です。

納期限内に必ず納めましょう。

乳幼児医療助成について

(本町では、所得制限なし)

○医療費の助成期間

医科・歯科ともに資格発生日
 から6歳に達する日以降最初
 の3月31日まで

○医療費助成

入院・外来とも保険適用分のみ

●住民税課税世帯

3千円を超えた金額

●住民税非課税世帯

医療費全額



児童扶養手当・特別児相扶養手当・ひとり親家庭医療費助成制度について

降の最初の3月31日までの間
 にある者) に対して医療費を
 助成する制度です。

子ども手当(児童手当)について

出生・転入等により新たに受
 給資格が生じたときや転出され
 るときは、役場保健福祉課窓口
 で届け出をしてください(公務
 員の方は職場にて)。

手当を受けるための手続き等
 詳しいことは保健福祉課窓口へ
 お尋ねください。

☎ 65-1111 (内線35)

喜界町の推計人口

(平成22年4月1日現在)

世帯数	3,678 戸	(△51)
人口	8,004 人	(△134)
男	3,835 人	(△82)
女	4,169 人	(△52)
		() は前月比

シマアザミ (島薊)

トカラ列島以南の南西諸島に自生するキク科アザミ属の多年草。アザミ属の仲間は北半球全域の冷帯域から亜熱帯域、高山から海岸まで、あらゆる条件下で多数の種が自生している。世界に約250種、国内には約100種あり、雑種や今なお見つかる新種もあり、種の同定は難しいといわれる。シマアザミは海岸近くに自生し、花は「白」が普通であるが、島の花は「紫」である。シマユミタでは「アダングー」。

葉は鋭いニニ(とげ)で武装しているが、動物が好む植物ほど嚴重に身を守るといわれる。したがって、奄美や沖縄では正月料理に使われるなど、シマアザミを用いた料理は多彩である。島では若い葉や茎などは佃煮にして、成長した茎はたたいて煮たのち炒めて食されている。

薬用としては薊(けい)と呼ばれる。ゴボウのように香りと歯ごたえがよく、食用としての価値もある根の部分は、洗って天日で乾燥させれば血圧降下、利尿、解毒、止血などに効果があるという。

一般的なアザミの花ことばは「権威」「触れないで」「独立」「厳格」「復讐」「満足」「安心」など、種に比例して多数。



成長した茎はたたいて煮たのち炒めて食されている。



トベラ (扉、海桐花)

東アジア原産でトベラ科トベラ属の常緑低木。樹高は3~5m程。国内では本州以南の海岸近くに自生する。雌花と雄花があり、実は熟すと粘着する種子を露出させ、その種子は鳥のクチバシや体に付着して移動する。その名のとおり、葉は本町の保護植物であるクサトベラと似る。

名の由来は広辞苑によると、「茎葉に悪臭があり、昔、除夜に扉に挟んで疫鬼を防いだ」ため。扉がなまってトベラとなったが、島ではさらになまって「トウビラ」となり、元の発音に近づいた。その臭いトベラを食べたヤギは、やはり肉が臭くなってしまうが、その臭いヤギ肉を好む人もいる。反面、花の臭いは「いい匂い」で、写真撮影の時にも芳香が漂っていた。

花ことばは「偏愛」「慈しみ」。

インパチェンス

アフリカやニューギニアの海拔1,800m以上の高原地帯が原産で、ツリフネソウ科ツリフネソウ属の一年草(本来は多年草)。別名アフリカハウセンカ(阿弗利加鳳仙花)。原種は19世紀にヨーロッパに持ち込まれ、1960年代にオランダで園芸品種として確立して世界中に広まった。品種改良により、花の色は赤、白、ピンク、オレンジ、黄色、紫など多彩で、八重咲きの花は小さいバラのようである。花はハウセンカとは似ても似つかぬが、葉の形が似るためアフリカハウセンカの別名が付けられたと思われる。名の由来は、いたずら好きの妖精や小悪魔という意味の「インプ」から。

品種改良されたとはいえ原種は高山植物であり、亜熱帯気候の島では日当たりのよすぎるところよりも、半日陰を好むようである。サダニのように繁殖力があり、こぼれ種で一気に広がってゆく様子は、可憐な花と相まって、まさに「いたずら好きの妖精」のようである。

花ことばは「豊かさ」「移り気」「鮮やかな人」。

